

平成30年度射水市食育推進会議 会議録

日時 平成31年1月31日（木）午後1時30分から

場所 射水市庁舎302会議室

出席者 射水市食育推進会議委員〔7名 尾山委員欠席〕

木田委員、亀谷委員、尾上委員、夏野委員、青木委員、松浦委員、高田委員

射水市食育推進会議幹事会〔9名〕

倉敷福祉保健部長、小見保健福祉部次長、轟保健センター所長、

久々江政策推進課長、泉生活安全課長、杉本子育て支援課長、中川港湾観光課長、

宮本農林水産課長、宮本学校教育課学校教育課長

事務局〔3名〕

中山保健センター所長補佐、山口主査、高原主任

(午後1時30分開会)

1 開会（司会：中山保健センター所長補佐）

2 会長挨拶

3 新任委員の紹介

4 議事

（1）食育関連事業について（資料1・2・3説明）

意見交換、質疑応答

尾上委員	各表に主たるものと再掲で上がっているものがあるが、これはどちらを主として捉えたらよいですか。例えば3の①で農業産業まつりがありますが、④の中に更に上がっています。農業産業まつりは食育にも関係ありますが、一つのイベントとしての要素が強い。要は捉え方ではないですか。再掲の内容が同じ文案、数値であることに違和感を感じるのですが。
事務局	同じ事業であっても項目に該当する内容を記載するとか、数値を該当するものに変えるように見直していきたいと思います。
尾上委員	学校給食の給食週間の間に食べ残しを集計的に調査されたことはありますか。
青木委員	基本的には残食調査は学校によってやっているところとやっていないところがあります。ただ、年2回栄養報告を県に報告する際には残食調査を必ず行って、それが一つの指標となります。また、給食週間はいろんなメニューを楽しむことも目標の一つですが、食べることへの感謝の気持ちを調理員さんに伝える為に、食べ残しをゼロにしようとか、片づけをきれいにしようとか、そういうことも指導しています。
木田会長	残食というのはなかなか難しく、日頃からその子のことを知っている家庭や担任がその子の適量というものを与えて、それを残すことなく食べるということをやるべきではないでしょうか。担任とか家庭の親力によるとは思いますが、そういうことまで考えないと、一律に同じ

量を食べるということは難しいです。

あったか家族の動画に出ていた、爆笑劇団は芸達者ですね。射水市医師会の会長をやっていますが、糖尿病デイというのをやった時に真生会のチップスという劇団と福祉短期大学の学生で糖尿病の時の食事とか、そういうことを寸劇で伝える工夫をしていましたが、そういう伝え方も大切だと思います。

また去年から射水市在宅医療介護連携協議会で射水市と医師会と協働で在宅に関することで市民公開講座などやっていますけれども、そういうところでも食育に関わっていくというのが大切だと思います。

高田委員

これまでの学校給食で色んな地場産食材を何回もだして子供たちの喜ぶ姿を目にしました。例えば黒河の竹の子、池多のリンゴ、新湊のフクラギとか白えび、橋下条の小松菜などなど。それが拡大されて「呉西(ごうせい)の日」ということで、一つの進歩だと思います。年に1回といわず2回3回近くの市町村と連携を図って続けるのはもちろん回数も増やしていただきたい。子供たちの社会勉強になるし、興味を持って喜んで給食を食べることになるのではないかと思います。そこでまた食育推進を図っていただきたいなと思います。

木田会長

子どものことに関して言えば子育て支援課とか学校教育課のように対象の方たちが決まっている形だと成果がはっきりわかるのですが、今、毎年問題になっているのはその親の世代ですね。20代、30代の親の世代にどう情報を届けるかということなので、やっぱり子どもたちへの食育の時に必ず親のところに情報が届く、あるいは何かイベントの時に親を巻き込むと言ったそういうような工夫が必要な気がします。共に食事をする共食にしても、若い世代への食育にしても子供たちを通じてという形のことが手段の一つとしてあると思うのですが、このことに関しては事務局のほうから毎回そういうことも含めてということをお願いして頂いたら幸いです。

あと在宅とか介護に関した事業が出てきましたが、この時代としてはどうしても高齢者の食事ということが大事になってきます。病院食とか病人食という考え方じゃなくて、これから健康でできるだけ長生きするために、高齢者の方にとって体にいい食事と、食を楽しむということが大事だと思います。また80歳になっても歯が20本以上残っている時代になっているらしいです。ただむし歯が多く、歯槽膿漏とか、歯の衛生を含めたうえでの食育の指導がお年寄りに必要となっていくと聞いています。

(2) 市食育推進計画の数値目標について (資料4 説明)

木田会長

小学校で実施しているすこやか検診で要医療、経過観察に該当する児童の割合というのが平成29年度15.2%というふうにあります。要医療になった方がきちんと医療機関を受診しておられるかについて把握しておられますか。

学校教育課

資料がなく、今は分かりません。

木田会長

3年前に学校保健会の会長をしていまして、すこやか検診の担当だったのですが、その時に富山市医師会が作成した一覧表を見たら、要医療なのに受診していない学校があり、それが自分の学校医の担当のところだった。それで養教の先生を通じて学校長に伝えてもらいまし

た。すこやか検診と言うのは大人の方と一緒に血液のコレステロールとかちゃんと計っているんです。要医療と言うのはよっぽどよくない。一時期学校保健会で話題になったんですけど、学校心臓検診の時に要医療だと、親もすぐに医療機関にかかるんだけど、すこやか検診で要医療ってなると半年後とか大分立ってから受診される。よくよく聞いてみると、心臓のことは命にかかわるからってという言い方をされたので、いやいやすこやか検診の結果もやっぱり命に関わりますよ、と説明をしました。そのところの認識がまだまだ、すこやか検診に対する意識が薄いのかな、と思います。そのことは前任者の学校教育課の方には情報はお渡ししたので、またよろしくをお願いします。要医療っていうのが何%っていうのを出すことも大事ですけど、要医療になった人たちが本当にきちんと医療機関にかかっているのかということについて把握しておくことが大事だと思っています。よろしくをお願いします。

尾上委員

ちょっと教えてほしいのですが、⑦番目現状が 32.9%で家庭訪問調査によるとありますが、高齢者が多いですね。高齢者は割と野菜を食べたりするんですけど、この選出の方法は何か基準があってされたのですか。

事務局

こちらは食生活改善推進協議会にお願いして実施している調査で、家庭訪問と言うことで食改さんが隣近所の友達や知り合いの方に調査に行くことが多いと思われまので、そういうことで食改さんの年代と似たような女性が対象者として多くなりがちなのかと思います。

尾上委員

女性が断トツで多いですね。それと 60代 70代が多いですね。そうすれば必然的に摂取量が多くなるのは普通ではないですか。この 32.9%というのはあてにならないのではないかと。

事務局

現状としてとれるのがこの年代と性別の方だけになってしまうということで、参考値としてご了承ください。

木田会長

来年度、健康増進計画で食育計画も一緒に客観視できるようなアンケートを取るという案が事務局の方であるようですので、またそれに期待したいと思います。

亀谷副会長

食生活改善推進協議会の亀谷です。今出た意見で野菜の摂取量の件ですが、たしかに 60代、70代の人を対象に行っているのですが、富山県の統計を見ても 70歳以上の方は野菜の摂取量が多い。本当は若い世代の人たちにたくさん野菜を摂取していただきたいということを目指してアンケートを取っていかねばならないのかなと思います。私も自分の近所の若い世代の人を2、3件回りますが、引いた感じで受けられるのでちょっと行きにくいこともあり、結局顔見知りの方のところへ持っていくという感じになる。確かに今言われたように若い世代の人を対象にしてこれからアンケートを取るように、市の役員会でもお話をさせていただきます。

それと、今日も親子の食育で南部保育園へ行ってきたのですが、ケーキサレっていう簡単なおやつを親子で一緒に作ってきました。そのおやつというのは、家で冷蔵庫に残っている野菜を何でも少しずつホットケーキミックスの中に混ぜるので食品ロス対策につながります。今日はアレルギーの方もおられたので米粉を使ったのですが、混ぜてお好み焼きみたいに焼くと、それで結構栄養とかも取れるし、今日はブロッコリーを使ったのですが、「ブロッコリー嫌いやからちょっと」と言われるお母さんもおられたんですけど、みんなで一緒に楽しく

食べるとなるとやっぱり家で好き嫌いを言ってる子でも喜んで食べたりしてるんです。それでさっきも動画を見ましたが、家族が全員おいしく楽しく食べるって言うことが大事です。私たちはニーズに応じて活動をやっているんですが、若者世代に食の大切さとかバランスよく食べるとか食事をする楽しさを伝えていきたいなと思っておりまして、また働き世代の方には、今日も20代のお母さんお父さんが来ておられたんですけども、この方たちの食習慣の見直しをまずしていただくということ、今後を担っていく子供たちにしっかりと食生活を教えていただきたいと思うので、そういうところをしっかりと伝達していきたいなと思っております。

また高齢者には食を通して地域で共に生きていくための居場所として、30年度からシニアカフェということをしている地区もあります。

昨年の12月5日に小杉高校へ、若い世代を対象にした事業で行かせていただいたんですけど、その時に24、5人の高校生が参加されて、高校生というに関心がないかと思いましたが皆さん真剣に話も聞いてくださって、今の野菜の話とか朝食の欠食したらどういう風になるかとかそのような話を色々させて頂いて一緒に調理実習したんですけども、結構皆さん喜んでおられて「すごく勉強になった」、「知らないこといっぱい教えていただき良かった」、「来年もまた来てください」と言われました。

私たち食改は食育活動としてそのようにさせて頂いているので、これからも世代に応じた食育の活動をやってきたいなと思っております。

木田会長

ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。資料2、資料3の関連でも結構ですので、これまでを通して何かご意見があればお願いします。

松浦委員

青年会議所の松浦です。先ほどもあったか家族で出ておりましたが、私たち射水青年会議所も協力させて頂いて、今年度も標語の募集させて頂きました。今年度「真白の恋」の監督でもあります坂本監督に撮影の依頼もしております。また昨年と同じように爆笑劇団の方々にもご協力いただきまして、寸劇の作成もしていくことになっておりますので、できた場合には皆様に見ていただいて家族の温かみと言うものを感じていただければなと思っております。よろしく申し上げます。

夏野委員

夏野です。いみず野農協でえだまめを作っております。そこでえだまめを利用して枝豆コロケを作っています。評判がよくみんな喜んでます。

木田会長

資料の中の健康寿命日本一応援店で野菜ラーメンとか、若者に向けて効果があるかもしれません。工夫としては面白いなと思います。

ご意見の大筋としては、相当多くのことを射水市ではやっておりまして、ぜひこれを持続していただくということ。将来アンケートをとるとのこと、結果に関してはもうすこし客観的なものを参考にしていけるようにできればよいかなと思います。

(午後3時閉会)